

【研究区分：地域課題解決研究】

研究テーマ：聖地移住と若者参画による因島土生商店街活性化方策の研究	
研究代表者：地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース 教授 和田崇	連絡先：t-wada1969@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者：なし	
【研究概要】 本研究は、(1)人気バンド「ポルノグラフィティ」ファンの聖地・因島への移住メカニズムを解明するとともに、(2)因島土生商店街における活性化事業の担い手となる若者を確保する可能性を示すことを目的とした。調査の結果、(1)については、移住者が移住者を呼び込む形がみられること、商店街内の飲食店が交流・誘引拠点となっていること、行政施策が後押しすることがわかった。(2)については、フィールドワークが学生の貴重な学修機会になること、「よそ者」「若者」の視点・アイデアが商店街活性化に貢献する可能性が確認された。	

【研究内容・成果】

1. 研究内容

本研究では、(1)先行事例調査、(2)ヒアリング調査、(3)滞在型フィールドワークを実施した。各調査の実施方法は以下のとおり。

(1)先行事例調査

2023年6月から7月にかけて、宮城県栗原市（六日町通り商店街）と静岡県沼津市（アニメ聖地移住）、島根県雲南市（雲南ソーシャルチャレンジ事業）、宮崎県日南市（油津商店街）を訪問して、聖地移住および商店街再生に向けた若者参画の実態と成功要因を聴取した。聴取内容は、2023年11月21日に開催した「県大生による因島土生商店街活性化プラン発表会」で尾道市因島総合支所や因島商工会議所の職員ら約20名に報告し、因島土生商店街活性化方策を検討する上での参考としてもらった。

(2)ヒアリング調査

因島等に移住したポルノグラフィティファン12名と移住支援組織等4団体へのヒアリング調査を行い、ポルノグラフィティのファンが聖地・因島に移住するメカニズムを解明した。この研究成果は日本地理学会2024年春季学術大会で発表した。

(3)滞在型フィールドワーク

2023年9月4日から7日まで、地域文化コース3年生8名が因島土生商店街に滞在し、地域資源の発掘・再評価と関係機関へのヒアリング調査等を踏まえ、因島土生商店街活性化プランを検討した。フィールドワーク終了後に活性化プランをブラッシュアップし、2023年11月21日に開催した「県大生による因島土生商店街活性化プラン発表会」で尾道市因島総合支所や因島商工会議所の職員ら約20名にプランの内容を提案した。

2. 研究成果

(1)ポルノグラフィティファン聖地移住のメカニズム

静岡県沼津市では、同市を舞台としたアニメ放送（2016年）以来、著作権者と商店街振興組合、ファンによる聖地的環境の形成・演出が進み、それがアニメファンの聖地巡礼と聖地移住を後押ししていた。ただし、移住者にとって主たる移住要因は生活環境（都市的環境・仕事）の充実度にあり、アニメ聖地であることは副次的要因にとどまっていた。

これに対して尾道市因島地区では、ポルノグラフィティの聖地を巡礼する観光者や移住者の受入れに寛容であり、直接的・間接的支援を行う住民や地域団体の存在と、ファン（移住者）がファン（巡礼者・移住者）を呼び込む芽づるの式の移住メカニズムを確認できた。ただし、ポルノグラフィティの聖地であることだけが彼らに因島移住を決断させたわけではなく、

因島の自然・生活環境に魅力や安心を感じたこと、彼ら自身がライフイベントや人生の転機というタイミングにあったことも因島移住の決断材料となったことに留意する必要がある。

(2) 商店街活性化に向けた担い手確保の可能性

宮崎県日南市では、商店街テナントミックスマネージャー（日南市役所公募）と株式会社油津応援団が中心となり、油津商店街に 28 軒の小売店・飲食店と 15 社の IT 企業を誘致した。多様な市民・学生参加も推進し、多世代交流モールのイベント充実、学生経営のゲストハウスの開業等を実現させた。また宮城県栗原市では、商店会と先駆的移住者が組織した合同会社、地域おこし協力隊員が中心となり、六日町通り商店街に 20 軒の小売店・飲食店を誘致した。日南市と栗原市の取組みの共通点は、商店街にかつてのにぎわいを取り戻そうとしたわけではなく、面白いと感じることを楽しく実践するライフスタイルやビジネススタイルに価値を見出せる人が挑戦し、相互に交流できる「場」を創出したことにある。すなわち両市では、商店街をかつての姿に再生しようとしたわけではなく、時代の変化と移住者のニーズを踏まえた新たな地域づくりに取り組んだことがポイントであった。

さらに島根県雲南市は、自治組織と地域内外の若者、企業が地域の課題解決につながる様々なプロジェクトに挑戦する課題解決先進地「ソーシャルチャレンジバレー」を目指している。市役所と中間支援組織が中心となり、移住者・起業者が「やりたいこと」(Will)と地域(課題)をマッチングさせ、伴奏型支援を通じて 50 を超えるプロジェクトを具体化させ、市外から多くの人や組織、ノウハウ、資金などを呼び込んでいる。

こうした先進事例の成功ポイントを踏まえ、県立広島大生 8 名が 2023 年 9 月に 3 泊 4 日の滞在型フィールドワーク（地域資源調査・ヒアリング調査）をもとに、「よそ者」「若者」の視点から因島土生商店街の活性化プランを立案した。学生が立案したプランは、高大連携・高街連携により因島高校探究学習の充実をめざす「Habu Mix Labo」、因島土生商店街で健康増進・リハビリ活動を実施する「はぶケアプロジェクト」、因島土生商店街の空き店舗等を活用して分散型ホテルを運営する「はぶごとホテル」、宮城県栗原市と宮崎県日南市の取組みを参考に立案した「集客ビジネス起業型地域おこし協力隊員募集事業」の 4 つである。

このうち「集客ビジネス起業型地域おこし協力隊員募集事業」では、やる気のあるプレイヤーが少ないことと地域の協力・支援体制が不十分であることを因島土生商店街の問題点だと指摘し、商店街活性化に取り組むプレイヤーの確保とプレイヤーへの協力・支援体制の確保を目指して、プレイヤーの卵を育て、囲い込む「地域おこしインターン事業」、因島土生商店街への定住と起業を条件とする「地域おこし協力隊員募集事業」、インターン学生や地域おこし協力隊員等の活動を支援する「We Habu Support の設立」を立案した。そして、因島土生商店街の活性化に向けては「何をするか」より「誰がやるか」が重要だと提起した。

3. 研究成果のアウトリーチ

(1) 学会発表

- ポルノグラフィティのファンが聖地・因島に移住するメカニズム（麓穂乃佳と共同発表）
日本地理学会 2024 年春季学術大会（2024 年 3 月 19 日、青山学院大学）

(2) メディア掲載

- 中国新聞（2023 年 9 月 8 日）朝刊「土生商店街どう活性化 因島で県立広島大生 客層や歴史調査」
- 読売新聞（2023 年 9 月 8 日）朝刊「土生商店街活性化プラン 県立広島大生滞在演習」
- せとうちタイムズ（2023 年 9 月 9 日）「土生商店街復活にむけて県立広島大生が現地調査」
- 中国新聞（2023 年 11 月 28 日）「因島の土生商店街 学生が振興策提案 県立広島大」